

## 総務常任委員会 所管事務調査 報告書

---

### 1 開催日時

令和7年1月31日（金曜日）午前10時57分～午前11時21分

---

### 2 開催場所

伊丹市役所

---

### 3 出席委員（6名）

委員長	畑山和晴	副委員長	菊池美穂
委員	畠山由美	委員	佐藤浩崇
委員	村上治	委員	青柳信義

---

### 4 欠席委員（なし）

---

### 5 説明のため出席した者（3名）

伊丹市議会議長 戸田龍起

伊丹市都市交通部交通政策室都市安全企画課 永村豊

伊丹市都市交通部交通政策室都市安全企画課 主査 落久保宏朗

---

### 6 事務局職員出席者（1名）

主事 平塚啓太

---

### 7 調査事項

安全・安心見守りネットワークの取り組みについて

---

### 8 調査報告

伊丹市の人口予測によると、何もしないと25年後には人口の約1割が、40年後には、2割近く減少する見通しとなっており、現在の人口規模を維持するために、そのため「伊丹市総合戦略」を策定。目指すべき方向性として「現在の人口規模を維持し、未来の子どもたちにま

ちの活力を届ける」を基本目標として「更なる安全安心を届けるまち」を掲げました。セキュリティの高いマンションが選ばれるように、まち全体のセキュリティを高め、「選ばれるまち」になることを策定しました。

まち全体のセキュリティを高め「選ばれるまち」を目指すその一つの方策として、安全・安心を実現するまちを基本目標に掲げています。伊丹市の街頭犯罪・侵入犯罪認知件数は人口1万人あたりに換算すると、県内ワースト2位となり犯罪が少ないまちとは言えないとして、安全安心見守りカメラを、防犯対策950台、防災対策50台合計1000台を設置しました。この監視カメラに、ビーコンを活用した「まちなかミマモルメ」により発信機を持った対象者が、ビーコン受信機付近を通過するとアプリまたはメール通信で保護者に知らせるものとなっています。また、対象者が迷子になった場合は、迷子の方の情報をボランティアへ送信し捜査協力の依頼もできるようになっています。なお、令和元年200台増設し、現在1200台のカメラが稼働しているそうです。さらに、受信機が、市バスや、児童クラブ、公用車、自動販売機などへも設置が広がっているとのことでした。対象者は、児童生徒や若年性認知症者、加齢に伴う認知症者となります。このため関連するのは教育委員会や保健福祉部となっています。

監視カメラ設置以降、街頭犯罪認知件数は、設置前の61.2%となっており、市民意識として「住みやすい」と回答した人は87.6%、「住み続けたい」と回答した人は76.9%となっており、効果として表れています。

しかしながら、本市において考えると、犯罪件数における費用対効果をみれば、同じような取り組みは難しいと思われれます。また、何か事故が起きた場合は所持者からの通信はできないとのことで、子どもの見守りに関しては携帯電話やGPSを活用する方が実用的であると思います。ただし、現在全国的に増加している盗難目的の凶悪犯罪や、認知症対策において、防犯カメラが事件の早期解決や抑止力になっていることは明らかなので、設置場所を見極めながら台数を増やしていくべきと考えます。

本市は子どもの多いまちであると同時に、今後高齢者も増えそれに伴い認知症の数も増えてきます。この見守りネットワーク事業は、安全・安心なまちづくりという点で犯罪者に対し、伊丹市での犯罪は難しいと思わせることができる事業であると思います。また子どもの見守り、高齢者の徘徊等の対策にも効果があると思われれます。

本市は面積も小さく、大きな費用もかけず取り組める自治体であると思います。防犯カメラ設置は本市でも行っており、今後更に地域からの要望を聞き取り、積極的に設置に動く必要があります。それにより、本市も犯罪者にとって警戒されるまちになると思います。また、ビー

コンではなくとも、子どもの見守りや認知症の方への対策など、現在様々な機能を要するアプリ等があると思います。それらを調査し、本市にとって何が一番効果があるかということ、早期に検討すべきであると思います。

---

令和7年2月19日

委員長 畑 山 和 晴

---